

第3学年だより



九里学園高校 最上学年のみなさんへ！

皆さん、進級おめでとうございます。 いよいよ&とうとう、最終学年のスタートに立ちました。

そこで、**第3学年団は次のような指導目標を掲げています。**

1. 「礼」に則った言動を心がけ、日常的に「譲」を実践し、社会の輿望を担うことのできる人格を育成する。
一言でいえば、「人として成長しよう！」
2. 九里の最上級学年の生徒として、学習活動・教科外活動・自治活動・高校生活に主体的に取り組めるようにする。
一言でいえば、「高校生として頑張ろう！」
3. 進路課との連携のもと、希望する進路を実現する。
一言でいえば、「希望進路を実現しよう！」
4. 自分たちの住む社会に関心を持ち、社会の一員として物事を考え、行動できる人間になる。
一言でいえば、「社会人として成長しよう！」

先生たちはみんな**燃えています！** よろしくね!!

第3学年の先生たちを紹介します

学年主任	遠藤 英 (社会)	
1組担任	中山 大輔 (理科)	
2組担任	佐藤 秀人 (数学・学年副主任)	
3組担任	佐藤 健太 (英語)	
4組担任	佐藤 涼子 (国語)	学年付の先生
5組担任	根津 利栄 (芸術)	町田 悦子 (国語)
6組担任	横山 明良 (英語)	熊澤 広二 (商業・進路課長)

4月28日(木) 18:30より、PTA総会が予定されております。

また、その後の学年・学級懇談では、卒業祝賀会に向けた話し合いもおこなわれる予定です。

お忙しいなか、大変恐縮ではありますが、万障お繰り合わせの上ご出席いただきますよう、お願い申し上げます。

《進路への取り組み》

今年は、東日本大震災の発生によって、社会情勢が大きく変動しています。それは、私たちの学年の進路実現においても、少なからず影響してくるものと思います。

就職希望者は、“求人票が出てくるのを待って気に入ったものを選ぶ”ということでは、うまくいかなることが予測されます。とくに、置賜から高校生が就職する地域範囲(東北・関東)では、企業の経営状況&新たに職を探す大人たちの存在を考えると、“メニューから良いのを選ぶ”のような姿勢では良い職は得られないと思います。

そこで、**お願いします。**

自分がどのような職に就きたいのか、そのためにどれだけ努力するのか、が決め手です！

“九里にはこんなに情熱のある良い生徒がいるよ！”ということになれば、地域にかかわらず、こちらから企業に“受験のチャンスをください！”とお願いできると思います。

“就職は、自分の手で勝ち取る！”という姿勢でいきましょう！！

進学希望者は、この1ヶ月間で、学校が置かれた状況が大きく変わったところもあると思います。

そこで、**お願いします。**

学校の情報&学生生活に関する情報(アパートなど)をチェックしてください。

また、ご家庭の経済状況についても変化がないか、お家の方との相談を密にしておいてください。

そして、九里学園高校から「こういう取り組みをしてください」と言われたものは、確実に取り組んでください。進路課では「進路講座への出席は、そのまま、その人の進路意欲のあらわれ。入学・入社するためだけでなく、入ってから困らない力をつけることが必要。」と話しておられます。

このたびの東日本大震災では、皆様の周りでもさまざまな形で被害にあわれた方がおられるものと思います。置賜地方でも、寒い季節に停電があるなど、生活基盤のよろさを思い知らされて、不安も消えない毎日です。

幸い、本校生徒には被害はなく、校舎もほぼ無傷で、学校の動きとしましては、混乱も収束してまいりました。しかし、九里学園の職員にも津波の被災地出身の先生、福島市から通っている先生、旧職員にも福島原発近くの富岡町で教員を務める先生などがあって、心配は尽きません。そして、毎日小さな余震が続き、原発の問題も目を離せない状況です。

今回のように、家族が別々の場所にいるときの災害、そして災害後に長く続く生活難は、一人ひとりが「自分の身は自分で守る」ことが必要であることを教えてくれています。今回助かったあるお婆さんが、「幼い時のチリ地震津波の体験から『みんなてんでんこ』(みんながてんでに自分の身を守らなければならない)ということを学んだので助かった」と話しておられました。

このような「自立」の力は、災害のない普段のときにも、「生きる力」として、その威力を発揮してくれるでしょう。いま私たちは、日々の生活から見直す必要があるのかもしれない。